

<天皇賞（秋）>

◎アーモンドアイ

○ダノンプレミアム

△スワーヴリチャード

×サートウルナーリア

注アエロリット

注ワグネリアン

☆【推奨穴馬】・【人気馬オプション】

2番アーモンドアイ

三冠レースを楽勝しただけでなく、ジャパンCで 2.20.6 というとんでもない世界レコードを樹立し、続くドバイターフも快勝して7連勝を飾った歴史に名を刻む怪物。前走の安田記念は<3>着に敗れてしまいましたが、スタートで他馬に寄せられた大きな不利があつたもの。内目を通った馬が断然有利な馬場レベルの下、直線外目から猛然とクビ差まで追い込んだ内容は負けて強しという内容でした。全く悲観するような敗戦ではありません。軽い芝でのパフォーマンスにレベルの高さは疑いようがありません。千八→千六と距離を短縮していっただけに二千に延びる今回は折り合い面に心配が多少ありますが、杞憂に終わる可能性は十分あります。ただ、不利を受ける前のスタート自体ももうひとつ良くなかっただけにゲートは決めて欲しいところです。今回は3歳馬サートウルナーリアとの初対決が大きな注目を浴びます。相手は斤量利がありますが、それでも圧倒するシーンまであっていいでしょう。ゲートさえ決めれば、力が違うと見ます。

9番ダノンプレミアム

前走の安田記念は 2.0 秒差・<16>着とよもやの殿り負けを喫してしまいましたが、アーモンドアイ同様にスタート直後に受けた大きな不利が堪えたもの。出脚が付かずに後方からの運びとなってしまいました。歩様に乱れを気にされてレース後には下馬するシーンもあり、全くレースになっていなかっただけに度外視出来ます。今回は距離が二千になりますが、5走前の弥生賞で後の日本ダービー馬ワグネリアンに 0.2 秒差を付け、3走前の金鯱賞では後の宝塚記念馬のリスグラシューに同じく 0.2 秒差を付けて快勝。高いレベルの内容で、2戦2勝としています。2走前のマイラーズCを走破時計 1.32.6・上がり 32.2 秒で勝っており、軽い芝も大歓迎です。これまで8戦して負けたのは、その前走の安田記念と順調さを欠いてブツツケ本番となった日本ダービーの2戦のみ。まだ底を見せていません。改めて見直

したいところです。

4番スワーヴリチャード

この東京に2-2-2-1という良績。唯一馬券圏内を外したのが今年のこの天皇賞(秋)での<10>着ですが、ゲートで出遅れてしかも他馬と接触するアクシデントがあり最後方から。4コーナーでもぶつけられる不利がありました。『久々の分か、馬に気持ちが入らなかった感じ。』というデムーロ騎手のコメントもあり、力負けではありません。その後のジャパンC・ドバイシーマクラシック・宝塚記念で<3>着と、勝てないまでも一線級相手でも通用する力を持っているところを見せ続けています。『今年のこの時期よりも元気がある。』という陣営のコメントからも、臨戦態勢は整ったと見ます。唯一のG1勝ちがこの二千の大阪杯。そして、ベストコースの東京。ベスト舞台と言えるここならば、食い込みが十分期待出来ます。

10番サートゥルナーリア

デビューから4連勝で皐月賞を制覇。年明け緒戦という異例のローテーションも克服して、ホープフルSに次ぐ2つ目のG1を制しました。続く日本ダービーではスタートの後手がありました。ヴェロックスに最後に差し返されたゴール前から二四の距離がどうかという心配は残っていました。しかし、復帰緒戦となった神戸新聞杯ではヴェロックスに0.5秒という大きな着差を付けて圧勝。これまで上がり33秒台すら一度もマークしていなかっただけに、32.3秒という数字は瞬発力についての不安を払拭するには十分過ぎる素晴らしいものでした。どう考えても菊花賞の方がメンバーレベルは楽なものでしたが、三千を嫌ってこちらへ。まだベスト距離がどこか分かりかねますが、二四で勝ったとはいえ距離負担の少ないSペースからの瞬発力勝負になった前走だけに、それより短い距離になるのは好感が持てます。

5番アエロリット

昨年勝った毎日王冠でしたが、今年は<2>着。ただ、スタートで出遅れて最後方の位置取りとなりながら、直線だけで差し切ってしまったダノンキングリーの強き方を誉めるべきでしょう。マイルのヴィクトリアマイル・安田記念でもハナを切るダッシュ力を持っているだけに、ここでも楽に先手が叶います。二千に距離が延びるのは大きな課題には違いありませんが、粘り込むシーンは一考します。

14番ワグネリアン

休み明け緒戦の2走前の大阪杯は、疲労が抜け切らないという理由で立て直すのにレース間隔が開き半年振りとなった一戦。ぶっつけでG1という厳しいローテーションになってしまった中でも0.1秒差・<3>着。当時は内目を通った馬が有利な馬場レベルを味方にし

た進路取りが結果に大きく繋がったことは否定出来ませんが、力は十分に示しました。それだけに、続く前走の札幌記念はそれ以上の内容を期待しましたが、0.2 秒差・<4>着と後退。しかし、それはレース中に両前を落鉄していた影響が大きかったと考えられます。日本ダービーを勝っているように、軽い芝の東京へのコース替わりはプラス材料として働きます。二千を2走連続で使って前半の位置取りが良化した点も好感が持てますし、馬券圏内への食い込みを期待します。

6 番ユーキャンスマイル

菊花賞ではメンバー中最速の上がり（33.9 秒）を使って、フィエールマンから 0.2 秒差・<3>着。後に有馬記念・札幌記念を制したブラストワンピースに先着しているのですから立派です。2走前のダイヤモンドSではメンバーレベルがかなり低かったとはいえ、直線だけで楽々の差し切り勝ち。上がり 33.4 秒は勿論メンバー中最速のもので、力が違うと言わんばかりの強いレース振りでした。この2戦の強いレース振りから、前走の新潟記念は二千への距離短縮が大きな不安材料として映っていました。しかし、結果は4コーナー12番手からの差し切りV。対応したのは力を付けていることの証明に他なりません。ただ、今回は相手関係がグンと強化されます。引き続き得意にしている左回りの軽い芝ですが、一線級が相手ならばもっと距離があった方がベターであることには違いありません。3連複要員としての一考です。

15 番ウインブライト

中山金杯・中山記念・香港のクイーンエリザベス2世Cと3連勝でG1制覇。その勢いは素晴らしいものでした。復帰緒戦となった前走のオールカマーは 1.5 秒差・<9>着と崩れてしまいましたが、『夏場の乗り込み不足が敗因。負荷が足りず中身が出来ていなかった。』と状態面にその理由を求めました。今回は叩かれた分の状態面の上積みが期待出来ます。力を見直したところですが、これまで積んできた目立つ良績のその全てが重い芝でのもの。今回は軽い芝の東京が大きな課題となります。瞬発力を要求されると分の悪さは否定出来ないだけに、道中のペースが上がって欲しいところです。16番アルアイン 今年のこの天皇賞（秋）で 0.4 秒差・<4>着。2番手から伸び切れませんでした。走破時計 1.57.2 は、2走前の大坂杯の 2.01.0 よりも 3.8 秒も早いものでした。軽い芝の時計勝負よりも重い芝の方が合っていることは、この比較からも明らかです。今年も昨年ほどにないにしても良好な馬場レベルを誇っています。金曜日に降る大雨の影響が少しでも残る馬場レベルになることが理想的でしたが、それは残念ながら叶いそうもありません……。

☆【季節・気候馬オプション】

14 番ワグネリアン (◎)

秋競馬は3戦3勝と土付かず。

敗北のない東京替わりも含め、2強の牙城を崩す可能性は十分です。

9番ダノンプレミアム (○)

ダービー、安田記念と馬券圏外に敗れた2戦は気温上昇期の東京。

レコード勝ちがある秋の東京替わりで見直しが必要でしょう。

4番スワーヴリチャード (△)

秋の東京は2年前に重賞勝利実績あり。

ここは季節馬のリピート好走を警戒します。

8番マカヒキ

秋の東京では【0-0-0-4】と好走歴なし。

ダービーを制した東京とはいえ、一変を臨むは酷でしょう。

※ (◎) (○) (△) は買いの意味を含んでいるので、<3>着以内が成功例です。

(中にはアタマ指定も入っています。)

印のないものは、危ない人気馬を指します。ですので、凡走した際に指名成功という訳です。

☆【波乱度オプション】・【買い目オプション】

(～馬場分析～)

<東京>

野芝に洋芝をオーバーシードした状態で施行されます。

2回連続開催となり、前半7日間はAコース使用・中間6日間はBコース使用・後半4日間でCコース使用となります。今週から仮柵が出現し、A→Bコース使用へ変更となります。

『大きな傷みは柵の移動によりカバーされており、全体的に概ね良好な状態です。』という発表です。芝丈は、野芝が12～14cm・洋芝が16～20cmです。

土曜日9R 神奈川新聞杯<2勝クラス>(芝千四)のベストアクターが1.20.6。走破時計も上々ですが、レースの上がりタイムも33.7秒と早いものでした。

「稍重」→「良」で回復した含水率が高い馬場レベルでこの数字。良好な状態です。明日は更に早い時計がマークされるでしょう。午後は天候が下降しますが、競馬が行われている時間は保つという予報です。軽い芝に優秀なベストパフォーマンスを持っている馬を狙いましょう。

(波乱度C)

(3連単フォーメーション)

2 → 9・4 → 9、4、10、5、14、(6、15)

2 → 9、4、10、5、14、(6、15) → 9・4

3連単 02-09-05 8860 円的中!